

所在地	山口市宝町 2-56
連絡先	TEL 083-922-2694
H P	https://www.koujou.co.jp/
代表	善生 浩一



ホームページ

今月号では、鴻城土建工業(株) 六代目社長の善生浩一氏にお話を伺いました。



●沿革

明治16年1月	増本組を設立創業
昭和20年3月	鴻城土建工業株式会社に改組
昭和58年1月	創業100周年を迎える
平成23年5月	六代目社長に善生浩一氏が就任
令和 4年 3月	新社屋竣工



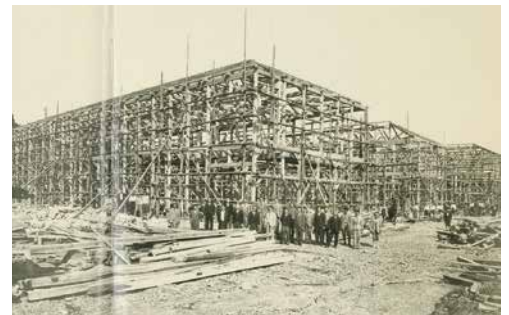
●創立 142 年、山口市内でも歴史ある建設会社

鴻城土建工業は建築一式工事の取りまとめをする施工責任会社です。建築業専門で、木造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造などあらゆる構造の建物をつくり、公共事業から店舗・オフィスなどの民間工事、ご要望があれば住宅・リフォームの仕事まで幅広く受けています。

最初は創立者の増本留次郎氏によって、土建請負業・製材業の増本組として立ち上げられた後、鴻城土建工業株式会社に改組されました。現在は宝町に拠点を移していますが、創業当時は下宇野令（現在の朝倉口）にあり、その近くに大内氏遺跡の一つである高嶺城のあった鴻ノ峰があったことから、社名に「鴻城」と付けられたようです。

創立から140年以上が経っており、山口市内の建設業者の中でも古くからある会社で、公共事業に関わり始めたのも早かったのではないかと思います。公共建築では秋吉台少年自然の家や山口県商工会館、山口県警察学校けん銃射撃場、教育施設では宮野小学校、鴻南中学校、山口中央高校や山口大学など、県内の小学校・中学校・高校・大学の校舎、宿泊施設では湯田温泉ホテル常盤、ホテル西長門リゾート、防長苑など様々な施設の建築に携わってきました。

当社では「まごころと確かな技術」というスローガンを掲げています。私が入社したのは会社が創立100周年を迎えた翌年で、ちょうどその頃に行われたスローガンを考える社内コンペで決まったものです。かれこれ40年、掲げ続けていますが、会社の大切な考えが詰まっています。



山口大学文理学部棟を建設した際の集合写真（昭和25年竣工）

●地場企業だけで臨んだ公共工事

昨年の施工実績としては、公共工事では山口市の新本庁舎棟や湯田温泉こんこんパークの新築工事、民間工事では物流会社の事務所・倉庫や幼稚園の新築工事を手掛けました。

山口市新本庁舎については、工事規模の大きさから複数の建設業者が共同で施工することになっており、建築工事では清水建設(株)、シマダ(株)、弊社との特定建設工事共同企業体(特定JV)を結成して取り組みました。

一方、湯田温泉こんこんパークでも弊社を代表者として(株)西谷工務店、大和建設(株)と特定JVを組んで建築工事を行ったのですが、建築だけでなく電気や設備、外構工事まですべてを山口市内の事業者が担当しました。これについては、本当に山口市に感謝をしているところです。このような特殊な建物を「地場の事業者だけでも建設できる」という実績を残せたことは、とても意義のあることだったと思います。

知恵を出し合うことでお互いの技術力が向上し、地場の企業の発展にも繋がります。建設業は自らの仕事の成果が形として残りますので思い入れも強く、家族をはじめ身近な人に建設過程の話をできることは醍醐味の



山口市新本庁舎



KDDI 維新ホール

一つではないでしょうか。それが、これから社会に出る高校生や大学生が、建設業に入職してみたいと思うきっかけにもなるのではないかと思います。

また、過去5年間では、山口県立大学3号館やKDDI維新ホール、山口県赤十字病院の北病棟のほか、自社の新社屋建築も実施しました。

新社屋については以前の社屋が約50年前に建てられたもので、耐震性がなく、隙間風や雨漏りがあるなど居住性にも問題があり、コンセント口も少なく様々な機器を使うようになった今の時代に合わないことなどから、建て替えを決めました。設計に1年かけ、新型コロナウイルスの影響から資材が入らない時期や価格高騰もあって建設にも1年と、時間も予算も当初の想定より多くかかってしまいましたが、令和4年に完成しました。



新社屋の設計資料

● 確かな“技術力”による付加価値の提供

以前は住宅も年間10棟程度建てていました。しかし、住宅建築に特化し、費用も比較的抑えられる大手企業の進出や、1,000万円以下で建てられることを謳った会社の台頭など、受注にまで至らない状況となりました。

それでも、約10年前に新築した湯田の井上公園にある何遠亭^{かえんてい}や、湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」など、鴻城土建が施工したことを知って「こんな家を建てたい」と問い合わせをいただくこともありました。イメージされているように漆喰塗りや板張りをすると相応のコストがかかることなどを説明、確認した上で「建ててほしい」とご指名いただいた方の住宅は何軒か建てさせていただきました。

鴻城土建の昔からの一貫した考えで、スローガンにもあるように、私たちが売りにしているのは技術力です。先人からの技術継承、そしてそれ以上の技術向上を目指しています。相応の価値を感じていただける技術力と、真摯に各現場に向き合う真心が、当社の付加価値になるものだと考えています。



幕末志士にゆかりのある何遠亭を模して新築した建物

● 社員と決めた採用方針、一人を大切に育てる

私が社長になってからは、2年に1度、新たに1人を採用するようにしています。人材採用についても社内会議で話し合うのですが、即戦力を期待して経験者の採用を検討したこともありましたが、しかし、技術者に関しては、経験者の採用はしないこと、みんなで一人を大事に育てていくことを決めたのです。

入社して7年目には独り立ちしてほしいとは思っています。それまでに工事の交渉や進め方を習得させ、出来ると私が判断した時に「そろそろ現場代理人としてやってみるか」と声を掛けて任せてみることにしています。実際に、3年前に新社屋を竣工した際には、その現場は入社して数年の若手社員に施工担当として就いてもらいました。

一度任せたら、私から口出しすることはほとんどありません。聞きやすい雰囲気^{きこやすいきょうぐう}の社風^{しゃふう}にしているの、分からないことがあれば先輩に聞いて和気あいあい^{わげあいあい}とやっている様子がうかがえます。

また、当社では「全員が営業」と伝えています。営業職の社員もいますが、技術者（現場監督）も営業としての心構えを持つように、ということです。現場に入っている間に「こういう仕事は頼めますか」というような話^わが来^きることもあります。そういったところから新しい仕事に繋がることもあるので、すぐに判断がつかなかったとしても、先輩や私に相談するよう話しています。



新社屋の鉄骨工事中の様子

● 建築技術者の育成で地域に貢献

この業界では、若手の建築技術者や技能士が不足していることが近年の課題です。今後も市内に限らず県内で様々な現場に関わりたいと思っていますが、湯田温泉こんこんパークのように、地場の事業者だけで実施させていただける機会があれば有難いと思います。

ものづくりの魅力を肌で感じながら、若手が学べる場、技術力を伸ばせる場にもなり後進を育てることに繋がると考えます。これからも、今後の業界を支える若手の育成と、建築事業を通じた地域貢献を続けていきたいと思っています。